会員企業ご訪問 NO.22

大林化学工業株式会社（ 東大阪支部）

今回は、大阪府東大阪市に本社のある大林化学工業株式会社（ 正会員・ 東大阪支部）を訪問し、専務取締役　木村　慶次様　をたずねました。

会社の概要

－ 御社の概要をお聞かせください。

当社の創業は、昭和26年に社長である大林 貞雄が熱硬化性樹脂の成形を始め発足しました。「 サクラ 」印の商標で昭和36年よりプラスチック家庭日用品の製造販売業務を開始し、翌、昭和37年に 大林化学工業株式会社 を設立し、大林 貞雄が代表取締役に就任しました。その当時は、下請けを行っていましたが、昭和42年に自社商品として手芸用素材としてプラスチックネット 及びバスケット の生産を開始し、その後収納シリーズのストックボックス、続いて同シリーズのスペーサーワゴンの販売を開始しました。昭和57年にストロー付水筒スポーツクーラーシリーズを発売しましたら、消費者のニーズに合い、おかげ様でご好評をいただき大ヒットしました。

また、営業部門として、販売網の拡充を行うため東京・ 名古屋に営業所の開設を行い、整備の充実を図り、昭和60年に本社新社屋の第1期工事、続いて第2期工事を完了させ、事務処理の向上を図るためにオフィスコンピューターの導入を致しました。

そして、昭和61年に創業35周年を期に「 さくら 」印を現在の商標に変更しました。この商標は社長夫婦がOHBAYASHIを共に築いてきた意味を込め2本線を使用し、かつ社名であります“ OHBAYASHI”を用いイメージされたのを商標に使用しております。

現在は、“「 Ｇｅｔ　Ｔｏｍｏｒｒｏｗ」～ともに明日を築こう～”を合言葉に、消費の絶え間ない変化に対応できる柔軟な頭脳を持ち、トップを先頭に新しい価値観を探り、創造できる環境作りを積極的に推進し、ニーズにあった高付加価値製品の開発提案の企業として取り組んでおります。

製造・ 販売している商品について

－ 御社で製造している製品についてお聞かせください。

プラスチック家庭日用品の製造販売業務を開始し、収納シリーズで好評をいただき大ヒットいたしました後、水筒・ キッチン用品と手がけて参りました。わが社は開発提案型企業でありますので、消費のニーズをいち早くキャッチし、テレビゲームの収納ケースを商品化した先発企業であります。

現在は、キッチン・ アウトドア・ 小物収納・ 玩具収納の4 分野を中心に製造販売を行い、小さなニーズを大きなニーズにかえるために社員が生活者としての目をもち、自主提案方式を用いて新しい価値観を探り、かつ高付加価値の製品開発を進めております。

また、5 分野の新事業としまして注目が集まっておりますマイナスイオンを用いたMI ＣＡ加工により水を活性化しマイナスイオン濃度を高め、草花の成長をより良い効果をもたらせる“ イオンポット ”を企画・ 開発をし、家庭園芸の分野に進出いたしました。

協会への要望等について

－ 今後協会へ求める要望等についてお聞かせください。

協会においては、最近の経済情勢が製造業の海外直接投資･海外現地生産の進展による産業の「 空洞化」への懸念と新たな成長分野への渇望が課題となっているので、『 産業の新たなフロンティアの開拓と既存産業の再構築に資するような規制緩和の推進と基盤の整備・ 円高差益の速やかな還元・ 内外価格差の是正を推進するような規制緩和の推進・ 取引慣行の見直し等』を進め、内需主導型の国際調和型産業の形成を図っていけるように行政に規制緩和並びに中小企業への支援等の要請をしていただけるよう期待します。

ありがとうございました。

取材：事務局　木原
　　加納